

シロイチモジヨトウ Beet armyworm (*Spodoptera exigua*)

【見分け方】

ネギのほかハクサイ、キャベツ、ホウレンソウなどを加害する。長距離飛来性で、ネギでは、新葉に多く産卵される。1～3齢期は90%以上が葉身内にいるが、4齢以降は分散して食害し、葉に穴を開けたり葉の途中を食い切るようになるため被害が大きくなる。

【発生生態】

例年7月から秋にかけて発生する。老齢幼虫になると防除が困難になるので、群生して食害する若齢幼虫期からの防除が重要になる。

卵は直径約0.4mmの球形で、十数卵から数十卵を卵塊として産みつける。卵塊は灰白色の鱗毛で覆われている。

幼虫は若齢期には黄緑色だが、中齢以降になると淡緑色から黒褐色のものまで見られ、個体変異が大きくなる。幼虫には胴部の側面に明瞭な白線があり、気門の周辺に白色またはピンク色の半月状の斑紋がある。ハスモンヨトウとは同属で、食害状況も類似しているが、幼虫の体長は終齢でも30mm前後であり、ハスモンヨトウに比べかなり小型である。

成虫は、体長10～15mmで体色は全体に明るい灰褐色で、前翅中央部に黄褐色の円形の斑紋がある。

ネギを食害するその他の鱗翅目害虫

シロシタヨトウ



イラクサギンウワバ



表皮を食害する若齢幼虫



老齢幼虫



蛹



成虫